

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

平成23年4月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2779101795		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家淀川		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市淀川区十三元今里1-9-6		
自己評価作成日	平成23年3月2日	評価結果市町村受理日	平成23年10月27日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://osaka.kaigokouhyou.jp/otasuke/start.action
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	大阪府吹田市千里丘下20-16
訪問調査日	平成23年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>笑顔の絶えない家庭的で静かに時間が流れる生活空間を作れるように一人ひとりの個性と主体性を尊重し、さらに地域社会との交流をもちながら地域社会の一員として生活できるように努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>阪急十三駅から徒歩10分程に位置する当ホームは、平成18年に開設した2ユニットから構成され、ケア21が運営している。「人を大事にし、人を育てる」が会社の方針であり、研修も法人内部で充実しており、職員に対するキャリア支援体制が整っている。若い職員はベテラン職員を通して学び、入居者に接することで感じ、理念である「入居者本位」のケアの実現に向け取り組んでいる。職員は穏やかな態度で入居者に接しており、入居者も笑顔で応えるなど、和やかな雰囲気である。ホーム内は全体的に窓が大きく、自然の光がとり入れられ、明るく清潔に保たれ、居心地の良い空間となるよう配慮されている。地域のボランティア活動を行っている方との交流で、入居者が笑顔になる場を提供している。提携医療機関との連携ができており、家族も安心できる環境になっている。職員と家族間で相談できる環境にもなっており、外出時等、ホームの取り組みについて協力を得る事ができている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流を運営規定に掲げ地域の一員として地域に溶け込んだ事業所となるよう努めている。	朝礼時や職員同士の話し合いの場で、理念について個々の職員で確認し、意識して行動している。各職員は理念を常に意識して、入居者にホームでの生活を楽しくもらえるよう、職員一人ひとりが考えを持ち、行動できるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日用品の買い物で近くの商店街を利用したり、散歩で公園に行った際は地域の方と挨拶、会話を心掛けている	町内会に入っており、地域のボランティア活動を行っている方との交流、近くの公園や公民センターへ足を運ぶ事で、地域の一員としての関わりを大切にしている。	さらに積極的な地域との交流の機会や関わりが持てるよう、近くの保育園や幼稚園、小学校等との交流やふれ合いなど、子ども達との関わりについても検討することを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高齢者の方がいろいろ教えて欲しいと施設を訪れる事があるので、施設の事や認知症のことなど話をさせて頂いています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員、地域住民、家族様から様々な意見やアドバイス、要望を頂きそれを取り入れながらサービスの向上に努めている。	2カ月に1回、町内会長、家族、地域の代表、地域包括支援センター職員等がメンバーとして参加している。会議では入居者の現状等を話し合い、時にはアドバイスを受け、支援に活かすようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは日頃から連絡をとり、ケアサービスの状況等を報告してアドバイスをもらっている。また困った事やわからない事はこちらから質問しておしえてもらっている。	地域包括支援センターとは連絡・連携が図られ、運営推進会議に参加してもらい、アドバイス等を受けている。	運営推進会議以外にも市や区の介護保険担当者と直接的な意見や話し合いができる関係を築いていくことに期待したい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束について具体的な行為の理解を深めるようにしている。玄関は安全確保の為施錠している。	身体拘束について、各職員は研修で学んでいる。ホームの理念にも精神的、身体的拘束はしないと掲げている。玄関の鍵は施錠しているが、各フロアの施錠は行っていない。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、区や市の介護保険課から来たパンフレットなどを全職員に配布し虐待について理解を深めるよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については利用されている方が居るので、わからない事は地域包括支援センターの方や、市の職員さんに質問したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームの理念、運営方針、金銭面などについて十分に説明し納得いただけるまで時間をかけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が普段口にされる意見、不満等は聞き漏らさないようにしている。家族様に対しては、玄関に意見箱を設置しているのと、面会時にこちらから意見を聞くようにしている。	家族の来訪時には気兼ねなく相談できる環境作りに努めている。また、玄関には意見箱を置き、より多くの意見や要望を出してもらえよう配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや、毎月のカンファレンスで意見を交換している。また日々のコミュニケーションを心がけ職員が意見を言いやすい環境作りに努めている。	月1回、管理者を含めたカンファレンスを開き、職員一人ひとりの意見や提案、話し合いの機会が設けられている。また、記名なしで自由に書けるアンケート用紙を各職員へ配り、そこで出た意見や提案を聞く機会を設け、業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課制度があり、職員個々の努力や実績を把握し給与に反映できるような仕組みをつくっている。またほめカードを活用しお互いをほめ合う事でモチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員はすべて2日間本社で研修を受けたあと業務に従事している。また社内で定期的に研修が実施されています。社外の研修にも勤務時間内で参加できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	会社内の他のグループホームに見学や研修にいきいいとこを取り入れ、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族だけでなく必ず本人と面談し困っている事、不安、要望を聞くようにしている。入居後もコミュニケーションをはかり不安や悩みを理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時から十分に時間をかけて家族が困っている事、求めている事を聞くようにしている。また入居後の生活などについても十分に説明して不安な事などについては過去の事例などを取り上げて説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときは本人と家族が必要としている支援が何であるか見極め、希望に沿った援助ができるか検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、共に喜び悲しを共感できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、家族、職員が協力して本人の生活を支えていきたいという事を見学時から伝え、契約時にもお願いしています。面会時や電話で本人の生活状況の報告をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
20	8	○馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に家族、友人、など何時でも面会に来ていただけるようお願いしています。馴染みの商店街に買い物に行ったり、家族様の協力で馴染みの美容室に通われている方もいます。	友人や知人等に自由に来訪してもらえるよう、家庭的な雰囲気大切にしながら支援を行っている。家族の協力も得ながら馴染みの理美容の利用や馴染みの商店街への買い物等、関係が継続していくような支援を行っている。また、個別の介護計画を定期的に見直している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係を見ながら、普段の座席やレクのときの座席を工夫している。またスタッフが間に入り利用者様同士がうまくコミュニケーションをとれるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入院、他施設入所などの相談にのっています。また継続的なかわりが必要なご利用者様や家族に対しては付き合いを大切にして継続的に関わっています。			

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、介護職員と十分に話し合い一人一人の意向を聞くようにしている。本人の意向を聞くのが困難な場合には表情などから読み取り本人本位に検討している。	職員は日々の生活の中で、入居者の行動や表情、会話等からその思いや意向を汲み取るよう努めている。関わり方や方法等については、入居者にとって一番よい方法を職員間で話し合い、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様、また在宅時の担当ケアマネージャーとも連絡をとり把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活や様子を通じて出来る事出来ない事や好きな事、得意な事などを見分けながら、健康状態、気分などを含めて、総合的に現状を把握するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活を通じて本人の希望や威光を把握し、本人、家族、介護職員でカンファレンスをもうけ意見や要望を反映させた介護計画を作成して実践しています。またモニタリングを実践し現状に即した介護計画を作成しています。	入居時に本人、家族の意向を聞き、それを元に介護計画を作成している。カンファレンスを定期的に行き、入居者の状況を把握し、評価を行っている。また、状態の変化に応じて見直しを行い、担当医、看護師の意見も確認し、現状に即したケア計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子、気付き、これまでの暮らしの様子などケアの中で得た情報を個別の記録に記入して、申し送り、カンファレンスにおいて職員間で情報を共有しています。その上で定期的にモニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携での訪問看護、介護タクシー、福祉用具のレンタルの相談、通院時の支援など多岐にわたるサービスの紹介、柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練は消防署の協力を得て実施しています。ボランティアの方に来ていただき、歌や踊りの催しを実施しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族から今までのかかりつけ医との関係を伺い、その関係の継続を希望された場合にはそのように対応しています。	入居時にかかりつけ医の確認をしている。月2回提携医の往診があり、必要時には随時医師の指示や往診が受けられ、連携が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	利用者様の体調の変化や急変時には看護師に相談し、適切な対応がとれるようアドバイスをもらっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は本人に面会したり家族と連絡を取り合ったりして早期に退院してもらえようように支援しています。また病院関係者にも連絡を取り、情報交換や相談をして関係作りを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に事業所の出来る事、出来ない事を説明している。終末期の方針についても話し合いを行っている。ご利用者の変化に応じてその都度本人、家族、職員、主治医と話し合いを行っています。	医療機関と連携を図り、重度化や終末期に向けた体制を整えている。本人や家族の意向を踏まえ、安心して納得した最期を迎えられるように、随時本人、家族の意思を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期の対応についてはカンファレンスなどで全職員に説明し実践できるように指導しています。救急対応等についてはわかりやすいところな手順を表示しています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと消防計画を作成し定期的に消防訓練を行っています。災害時には地域の人々の協力を得られるよう自治会に加入して交流を持つようになっています。	避難訓練を年2回実施している。訓練の際には近所に協力をできるだけ呼びかけている。消防署の消火訓練や、併設サービス合同の建物全体での消防訓練にも参加している。	災害時に備えて食料、飲料水、防災用品等についての備蓄品の管理がさらに充実することを期待したい。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重し対応している。カンファレンス等でその人その人に合った声掛け、対応を話し合っている。	管理者は、個人の尊厳を重視してケアに当たるよう指導している。言葉の虐待についての研修を受け、入居者との会話が馴れ合いにならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の些細な表情の変化を見逃さないようにし、会話の中で思いや希望を探っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を尊重し、入浴やレクリエーションの参加を強要しない。快く入浴していただけるような声掛けや、進んで参加していただけるようなレクリエーションを日々考えている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に着たい服をえらんでいただいたり、月に一度訪問美容のかつようをして、その方らしい身だしなみができるよう援助しています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、味見、利用者様に出来る事はお手伝いしていただくようにしている。	献立と食材は業者に委託し、栄養バランスやカロリーに配慮した援助ができています。調理や味付けは職員が工夫して行い、後片付けを自分の仕事として率先して行っている入居者もいる。使い慣れた食器を持ち込んでもらえるような支援ができています。	入居者が持っている力をできるだけ引き出せるような働きかけや関わりの時間も大切であることから、入居者と職員と一緒にできることが他にもないか検討されることを期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と3時にはお茶の時間をもうけているが、時間にとらわれずその人その人の好みに合った、飲み物をのんでいただき水分量が1日を通して確保できるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行っています。また定期的に歯科衛生士さんに口腔ケアを行ってもらっている方もいます。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄のパターン、兆候について職員間で意見交換をし、また排泄の兆候を見逃さないように努めている。	排泄チェック表で確認しながら、個々の排泄パターンに応じた個別の支援に取り組み、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。下痢や便秘など入居者によって状態が違うため、様子をみながら声をかけ、誘導するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分量、食事量、食事の内容等に注意し、また散歩など適度な運動をしてもらうよう心掛けている。排泄チェックは必ず行い便秘にならないよう気をつけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望を聞き入浴していただいています。入浴が嫌いな方については気持ちよく入浴していただけるような声掛け、タイミングを職員で話し合っている。	週に2~3回の入浴であるが、希望があれば入りたい時にいつでも入浴できるような支援を職員は心がけている。拒否や抵抗のある方には個々に関わり方の工夫を行い、入浴を楽しんでもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠していただけるよう、居室掃除、シーツ交換など清潔の保持に努めている。リビングにもソファを置き、いつでも休息できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった場合には申し送りで報告すると共に、ノートに書き情報を共有している。副作用についても十分に理解し服薬による症状、体調、様子の変化などに注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握してカラオケ、手芸など楽しく過ごしていただけるよう支援しています。洗濯干しやたたみ、ボタン付けなど負担にならない範囲でしていただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、天気の良い日には散歩や買い物に行きます。家族様の協力で花火大会に行ったり、毎年近所の公園でお花見をしています。	天候や体調に合わせて散歩に出かけ、外気に触れるようにしている。気分転換やストレス発散、五感刺激の機会としての外出を大切にしている。また、可能な限り個別ケアに取り組んでいきたいと考えている。	近くに大きな商店街、公園があり、散歩やショッピングには好条件である。入居者個々の希望や意向に対応できるような支援や関わりについて、継続的に検討することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には家族より預かり金として管理しているが、一人ひとり希望や能力に応じて家族とも相談しながら、可能な限り本人に所持していただいています。おやつや洋服など、本人に実際に見てもらい購入しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人から要望があれば、ホームの電話を使用してもらっています。携帯電話をお持ちの方には、使い方等説明をしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感のある飾りをしています。音や光には常に配慮し、職員も慌しく動いたりしません。	廊下や個室の入口に「ちぎり絵」や折り紙等、季節にあった飾り付けを行っている。居室内の温湿度計を職員が確認し、調整を行っている。プランターにはトマト、ジャガイモなどを栽培して、季節感や温かみを演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓だけでなく、応接セット、ソファ、マッサージチェアを置き思い思いに過ごせるようにしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッド、ダンス、仏壇等持ち込んでいただいています。自宅では布団で寝ていた方には畳を敷き布団で寝ていただいています。	入居者が今まで使ってきた品物や、思い出の多い鏡台、位牌、仏壇等を持ち込んでもらっている等、馴染みの物に囲まれた環境作り等に配慮がなされ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を心掛けています。トイレにはわかりやすくピンクのマークを表示しています。居室には表札をつけ混乱を防ぐようにしています。			

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が
			②家族の3分の2くらいが
			③家族の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない